# 飛鳥時代

名前

問1　飛鳥時代、推古天皇の摂政であった聖徳太子が定めた「冠位十二階」という制度について、その目的と仕組みを正しく説明しているものはどれですか。（2016年 千葉県公立入試 類似）

1. 土地と人民をすべて国家のものとし、位階に応じて区分田を割り当てることで、税制の基礎を築いた。
2. 有力な豪族の家柄を重視し、世襲によって代々高い役職を独占させることで、政治の安定を図った。
3. 家柄にとらわれず、才能や功績のある人物を役人に登用することを目的とし、その地位を冠の色などで示した。
4. 各氏族に対し、その功績に応じて「姓（かばね）」を授けることで、天皇を中心とする身分秩序を固定した。

問2　飛鳥時代、聖徳太子が推古天皇の摂政として制定した「十七条の憲法」の第一条には、「和（わ）をもって貴（たっと）しとなし、さからうことなきを、宗（むね）となせ」という記述があります。この法令が主な対象としていた人々と、その目的の組み合わせとして正しいものはどれですか。（2017年 沖縄県公立入試 類似）

1. 新しく台頭してきた武士に対して、主君への忠誠や戦いの作法を命じるため
2. 天皇に仕える役人に対し、政治を行う上での道徳的な心構えを説くため
3. 各地の有力な商人に、海外貿易を行う際の具体的な規則を伝えるため
4. 一般の農民に対し、重い税を納める際の心得や労働の義務を説くため

問3　舒明天皇や皇極天皇の流れを汲む天皇家において、中大兄皇子（天智天皇）と中臣鎌足が大化の改新を進めた後の時代に起きた「壬申の乱」の説明として正しいものはどれか。（2016年 千葉県公立入試 類似）

1. 天智天皇の弟である大海人皇子が、天皇の息子である大友皇子を倒して実権を握った争い。
2. 唐・新羅の連合軍に敗北したことをきっかけに、国内の防衛体制を整えるために起きた争い。
3. 後白河法皇の後継者問題をめぐり、源氏と平氏が対立して京都で発生した大規模な戦乱。
4. 蘇我氏の独裁的な政治に不満を持った皇族たちが、宮中で蘇我入鹿を暗殺した事件。

問4　天智天皇が全国的な戸籍を作成した歴史的な背景と目的について述べた文として、最も適切なものを選びなさい。（2021年 滋賀県公立入試 類似）

1. 遣隋使を派遣して中国の進んだ文化を学び、冠位十二階などの新しい身分制度を導入するため
2. 民衆の構成や氏姓を把握することで、税の徴収や兵士の動員を確実にし、国家の統治基盤を固めるため
3. 家柄にとらわれず才能のある人物を役人として登用し、天皇を中心とした中央集権体制を確立するため
4. 仏教による国家の安定を目指し、全国に国分寺や国分尼寺を建立するための費用を算出するため

問5　現存する世界最古の木造建築である法隆寺の金堂に安置されている、釈迦三尊像などの仏像に見られる彫刻様式の特徴を説明したものとして適切なものはどれか。（2017年 岐阜県公立入試 類似）

1. 鎌倉時代の武士の力強さを象徴し、血管や筋肉の動きを写実的に表現した力強い造形である。
2. 中国の北魏などの影響を受け、アーモンド形の目や、アルカイック・スマイルと呼ばれるかすかな微笑みが表現されている。
3. 唐の時代の豊かな影響を受け、丸みを帯びた顔立ちと豊満な体格が強調された写実的な様式である。
4. 平安時代の貴族の好みを反映し、寄木造の技法によって穏やかで優美な表情に仕上げられている。

問6　大宝律令のもとでの人々の負担について記した資料によると、口分田を与えられた農民には、収穫した稲の約3%を納める「租」のほかに、布や特産品を納める負担や、九州の北海岸を警備する「防人」などの兵役が課されていました。このような制度が整えられた主な目的として、最も適切なものはどれか。（2020年 広島県公立入試 類似）

1. 地主から土地を買い上げて小作人に安く売り渡すことで、農村の貧富の差を解消するため。
2. 公地公民の原則に基づき、国家が土地と人民を直接支配して税収や軍事力を確保するため。
3. 有力な農民に土地の私有を認めることで、地方の開墾を促進し、農業生産力を高めるため。
4. 土地を所有する権利を証明する「地券」を発行し、税制を金納に統一して財政を安定させるため。

問7　663年の白村江の戦いにおいて、日本が百済の復興を支援したものの唐・新羅の連合軍に敗北した出来事は、その後の日本の国家づくりに大きな影響を与えました。この敗戦を受けた当時の日本の対応として、最も適切な説明はどれですか。（2023年 福島県公立入試 類似）

1. 敗戦の責任を問い、中大兄皇子を退位させて、新羅から受け入れた仏教を中心とした政治に切り替えた。
2. 新羅と対抗するために、それまで対立していた高句麗と軍事同盟を結んで朝鮮半島へ再進出した。
3. 唐との国交を完全に断絶し、遣唐使の派遣を停止することで海外の争いから距離を置いた。
4. 唐や新羅の侵攻を恐れ、大宰府の北側に水城を築き、各地に山城を作って防衛を強化した。

問8　飛鳥時代後半から奈良時代にかけての貨幣の歴史について、正しい説明を述べているものを次の中から選びなさい。（2019年 秋田県公立入試 類似）

1. 富本銭は、平城京への遷都を記念して藤原不比等によって作られた。
2. 天武天皇の時代に、わが国最初の銅銭である富本銭が鋳造された。
3. 和同開珎は、日本で初めて鋳造された銀銭として全国に普及した。
4. 当時の政府は、貨幣の流通を促進するために蓄銭叙位令を廃止した。

問9　天武天皇が進めた政策のうち、国家の正当性を示し、天皇の権威を強化する目的で行われた事業として最も適切な説明を選びなさい。（2024年 大阪府公立入試 類似）

1. 仏教の力で国家の混乱を鎮めるため、東大寺の大仏造立や全国への国分寺建立を命じた。
2. 律令制度を完成させるため、日本で最初の本格的な法律である大宝律令を制定した。
3. 新しい政治の形を整えるため、唐の長安をモデルとした平城京への遷都を断行した。
4. 国家の歴史を体系的にまとめるため、『日本書紀』や『古事記』の編纂を開始させた。

問10　6世紀における仏教の伝来経路とその背景について述べた文として、最も適切なものはどれですか。（2023年 福井県公立入試 類似）

1. 中国の隋から直接、遣隋使によって初めて日本へ仏教の教えが持ち帰られた。
2. 東南アジアから海路を経て、直接日本の九州地方へ仏教が伝えられた。
3. 朝鮮半島にある百済の王から、公式な外交の一環として仏像や経典が送られた。
4. インドの僧侶がシルクロードを通り、高句麗を経由せずに直接日本へ来航した。

問11　大化の改新で示された「公地公民」の制度が、のちに崩れていく要因となった出来事について説明したものとして、最も適切なものはどれか。（2021年 和歌山県公立入試 類似）

1. 明治新政府が土地の所有権を認め、地価の3%を現金で納めさせる「地租改正」を実施したこと。
2. 武士が各地の土地を支配し、年貢の徴収権を確保するために「武家諸法度」を定めて統制を強めたこと。
3. 聖徳太子が冠位十二階を定め、氏姓制度にとらわれず個人の能力によって役人を登用し始めたこと。
4. 人口の増加にともなう土地不足を解消するため、開墾した土地の永年私有を認める「墾田永年私財法」が出されたこと。

問12　日本の古代史に関する略年表を作成した際、663年の出来事として「倭の軍が、白村江の戦いで、唐と【　】の連合軍に敗れる」と記述する場合、空欄に当てはまる国名として適切なものはどれか。（2017年 北海道公立入試 類似）

1. 新羅
2. 高麗
3. 高句麗
4. 百済

# 答え合わせ・解説

| | | |
|---|---|---|
| 問1 | 答え 3<br>家柄にとらわれず、才能や功績のある人物を役人に登用することを目的とし、その地位を冠の色などで示した。 | 聖徳太子は、従来の氏姓制度（家柄に基づく世襲制）による官僚登用から脱却し、天皇を中心とした中央集権的な国家体制を整えるため、個人の能力や功績を評価する仕組みを導入しました。これが冠位十二階です。この制度では、昇進が可能であることや、冠の色によって一目で地位が判別できるといった特徴がありました。 |
| 問2 | 答え 2<br>天皇に仕える役人に対し、政治を行う上での道徳的な心構えを説くため | 聖徳太子は、有力な豪族たちが勢力を争っていた当時の状況を改善しようと考えました。そこで、役人（貴族）たちに対し、天皇の命令に従うことや、争いをやめて和を大切にすることなど、官僚としての道徳規範を十七条にわたって示しました。これはのちの中央集権国家の形成に向けた重要な一歩となりました。 |
| 問3 | 答え 1<br>天智天皇の弟である大海人皇子が、天皇の息子である大友皇子を倒して実権を握った争い。 | 壬申の乱は、天智天皇の死後にその弟である大海人皇子と、後継者とされていた息子の大友皇子の間で起きた、古代最大の内乱です。この争いは、天智天皇が進めた近江大津宮での政治に対する地方豪族の不満なども背景にあり、最終的に吉野で挙兵した大海人皇子が勝利しました。これにより、勝利した天武天皇による強力な天皇専制政治が実現することとなりました。 |
| 問4 | 答え 2<br>民衆の構成や氏姓を把握することで、税の徴収や兵士の動員を確実にし、国家の統治基盤を固めるため | 律令国家を目指す上で、土地と民衆を国家が直接支配する「公地公民」の原則を確立させる必要がありました。全国的な戸籍を作成することで、それまで豪族が支配していた民衆を国家が直接把握できるようになり、租・庸・調といった税の負担や軍役を公平かつ確実に行う体制が整えられたのです。なお、仏教による統治は聖武天皇、才能による登用や遣隋使は聖徳太子（厩戸王）の時代の特色です。 |
| 問5 | 答え 2<br>中国の北魏などの影響を受け、アーモンド形の目や、アルカイック・スマイルと呼ばれるかすかな微笑みが表現されている。 | 飛鳥文化の仏像、特に法隆寺金堂の釈迦三尊像は、鞍作止利（止利仏師）によって制作された。中国の北魏の様式を継承しており、左右対称の幾何学的な衣のひだや、独特の微笑みを浮かべた表情にその特徴が見て取れる。 |
| 問6 | 答え 2<br>公地公民の原則に基づき、国家が土地と人民を直接支配して税収や軍事力を確保するため。 | 律令国家は、土地と人民はすべて天皇（国家）のものであるという「公地公民」の思想を基本としていました。班田収授法によって人々に口分田を配分する見返りとして、租・調・庸といった税や兵役などの重い義務を課し、中央集権的な国家体制の財政と防衛を支えようとしました。 |
| 問7 | 答え 4<br>唐や新羅の侵攻を恐れ、大宰府の北側に水城を築き、各地に山城を作って防衛を強化した。 | 白村江の戦いでの敗北は、日本列島への直接侵攻の危機を招きました。中大兄皇子は防衛の拠点として九州に大宰府を整備し、その守りとして水城や大野城などの城を築きました。また、都を内陸の近江大津宮（滋賀県）へ移すとともに、全国的な戸籍の作成（庚午年籍）を進めるなど、中央集権的な国家体制の構築を急ぐきっかけとなりました。 |
| 問8 | 答え 2<br>天武天皇の時代に、わが国最初の銅銭である富本銭が鋳造された。 | 7世紀後半の天武天皇の時代、国家としての体制を強化する一環として富本銭が作られました。これに続く708年には、武蔵国から銅が献上されたことを記念して和同開珎が発行されます。富本銭は主に儀礼用や限られた範囲での使用だったという説もありますが、わが国最初の「銅銭」という位置づけは歴史的に非常に重要です。 |
| 問9 | 答え 4<br>国家の歴史を体系的にまとめるため、『日本書紀』や『古事記』の編纂を開始させた。 | 天武天皇は、壬申の乱を経て確立した自らの政権の正統性を国内外に示すため、国家の歴史編纂を命じました。これが後に『古事記』や『日本書紀』として完成します。また、この時期に「天皇」という称号や「日本」という国号が本格的に使われ始めたと考えられており、これらは中央集権体制を象徴する重要な動きとなりました。 |
| 問10 | 答え 3<br>朝鮮半島にある百済の王から、公式な外交の一環として仏像や経典が送られた。 | 古代日本の仏教伝来は、朝鮮半島の百済を経由して行われました。これは単なる宗教の普及ではなく、当時の東アジアの国際情勢の中で、百済が日本（倭）との同盟関係を維持・強化しようとする政治的な目的も含まれていました。東南アジア経由やインドからの直接伝来は、この時期の公式な伝来とは異なります。 |
| 問11 | 答え 4<br>人口の増加にともなう土地不足を解消するため、開墾した土地の永年私有を認める「墾田永年私財法」が出されたこと。 | 公地公民の原則では、土地はすべて国家のものでしたが、人口の増加によって人々に与える「口分田」が不足しました。そこで政府は、743年に「墾田永年私財法」を制定し、新しく開墾した土地の私有を永代にわたって認めました。これにより貴族や寺社が大規模な私有地（荘園）を持つようになり、公地公民の原則は次第に崩れていきました。 |
| 問12 | 答え 1<br>新羅 | 7世紀の朝鮮半島では高句麗、百済、新羅の三国が争っていました。新羅は中国の唐と連合し、660年に百済を滅ぼしました。日本（倭）は百済の復興を支援するために軍を送りましたが、663年の白村江の戦いで唐・新羅の連合軍に大敗しました。その後、新羅は高句麗も滅ぼし、唐の勢力も退けて朝鮮半島を統一しました。選択肢にある高麗は、新羅の後に朝鮮半島を統一した10世紀の王朝であり、誤りです。 |